

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
いのち輝く 鹿島っ子の育成 ～元気で勉強 仲よく 楽しい学校～	①学力向上 ②いじめ防止 ③特別支援教育の充実 ④危機管理

3 目標・評価

① 笑顔であいさつ、元気いっぱい活動する子どもの育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・運動習慣の改善や定着化	・養護教諭、栄養教諭と連携し、健康教育、食育を進め、朝食の喫食率90%以上を目指す。 ・運動の楽しさを実感させるとともに、体力向上の意識を育てる。	・毎日の健康観察、時季に応じた健康管理の指導。 ・食育の重要性に関して、子どもたちの意識を高める。 ・体育行事を充実させ、年間を通じた体力向上を進める。 ・各学年でスポーツチャレンジ等に取り組み、運動の楽しさを味わわせ意識の向上を図る。
教育活動	●志を高める教育	・目標達成に向けて努力しようとする態度の育成	・「一貫貫行」に進んで取り組むことができる児童を80%以上にする。	・1年間通して取り組みたいことを全児童に決めさせ、教室に掲示することで、意識の継続化を図る。 ・「一貫貫行」を振り返る時間や場面を設定し、児童自身や教師による評価を行うことで、意識化させる。
学校運営	○安全安心な学校	・危機管理意識の高揚 ・事故防止と危険回避能力の育成	・危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 ・施設設備や教育活動の安全性のチェックを定期的実施する。 ・教職員の交通事故0をめざす。 ・訓練等を通して、児童に危機回避能力を身に付けさせる。	・避難訓練や交通安全教室を開催し、不審者等への対応など生活指導を強化する。 ・2ヶ月に1度「運転チェックシート」を配布し各教職員の日頃の運転状況を確認させる。 ・4月の職員会議で「飲酒運転撲滅実践計画」を読み上げ、共通理解を図る。 ・防犯ボランティア、警察署、交通指導員等との連携を強化する。 ・各学期2回の集団下校、毎日学年で下校時刻を揃える。

② 進んで学習に取り組み、課題を解決する子どもの育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	・教職員の意識改革及び職員研修、授業研究の充実	・研究授業を全員年1回以上行い、授業力の向上を目指す。 ・学年及び学年グループの交流を促進し、効果的な指導方法を共有できる場を月1回以上設定する。	・授業研究会では講師を招聘し、授業論、指導方法、指導技術等の指導力を向上させる。 ・第1水曜日の学級経営会議を中心に交流を活発にする。 ・校内研究主任を中心に、学力向上コーディネーターともタイアップしながら、各担任とともに分かる授業づくりを行う。
教育活動	●学力の向上	・基礎的、基本的学力の育成 ・国語科や算数科における指導方法の改善による思考力・表現力の向上 ・家庭学習、自主学習の充実	・国や県の学習状況調査で県平均を上回る。 ・国語科において書く活動を高める授業づくりに努め、それを他教科にも広げる。 ・家庭学習や自主学習は学年目標を設定し達成する。 ・家庭協力の促進と意欲のある児童の身長を図る。	・TTを核とし、児童を主体においた楽しく分かる授業を工夫する。 ・朝の「かくぞう・やるぞうタイム」や宿題、学期末のフェスタで基礎的事項の定着を図る。 ・校内研修で指導力の向上を目指す。 ・全校共通の学習規律を確立させ学習環境を整える。 ・国語や算数で「自力解決力」「表現するためのかく力」を育成する指導を行う。 ・学力向上だよりやアンケートで家庭への啓発を行う。 ・日本語検定、算数検定を導入し、その定着を図る。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICT活用教育について教職員のスキルアップ	・ICT機器を活用した授業実践を授業時数の30%以上にする。 ・授業中にICTを活用して指導する教職員の能力を高め、ややできるレベルまで高める。	・校内研修でICT活用についてスキルアップの研修を実施するとともに、研究授業の中でも積極的にICTを取り入れた授業を提案する。 ・情報教育推進リーダーを中心に、ICT活用研修会に参加し、得た情報を他の職員に伝達する。
教育活動	○読書指導	・やさしい心を育てるための家庭読書・読書習慣の形成	・年間読書冊数を下学年100冊以上、上学年80冊以上に。また、50冊以下を15%以下にする。 ・家族での読書を推進する。	・朝の読書タイムを充実させる。 ・読み聞かせボランティア「はばたきの会」と職員が連携し、読み聞かせを実施する。 ・本とブックバッグ、読書ノートを準備し、1～3年生の家庭でファミリー読書に取り組んでもらう。

③ みんなと仲よくし、お互いを思いやる子どもの育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・思いやりの心と優しい言動ができる児童の育成	・命や人権について考える日を設定し、人権意識の育成を目指した取組を行う。 ・参観日には「ふれあい道徳」を実施し、家庭や地域と連携を図る。	・命や人権に関する授業を行う。 ・授業参観日には、保護者にも一緒に考えてもらう道徳の授業を年に1回実施する。 ・異学年交流やボランティア活動の実践。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめを見逃さない組織体制強化 ・「いごちのよい学級づくり」に取り組むことによる教育の推進	・年2回、心のアンケートを実施し、教育相談週間を設けることで、いじめ等児童の問題の早期発見に努める。 ・毎週月曜日、放課後の職員連絡会で配慮を要する児童について共通理解を図る。 ・グループ学年の連携を強化し、学級経営力の向上を図る。	・年間2回の教育相談週間を設定し、児童全員と担任が面談を行い、人間関係の悩みや困っていることを聞き取る。 ・年に1回Q-Uテストを実施し、その結果を分析し学級集団づくりに生かす。 ・心のアンケートにより児童の困っていることを把握する。 ・相談箱を設置し、児童の悩みの早期発見に努める。 ・定期的に学級経営会議を開き(5月、6月、夏季休業中、10月、11月)各学級の困っている点を出し合いながら、具体的な支援策を考え実践に移す。
教育活動	○生徒指導	・基本的生活習慣の定着	・進んであいさつや元気な返事ができる児童、無言掃除ができる児童、静かな廊下歩行ができる児童80%以上を目指す。	・全校朝会での生活の話で、前月の反省をし、返事や挨拶・無言掃除、静かな廊下歩行等の実践への意識付けを行う。 ・あいさつ運動を行い、自ら気持ちの良いあいさつができるように自主的・自律的な実践意欲を高める。
教育活動	○特別支援教育	・個に応じた指導、支援の充実	・配慮を要する児童を全職員が把握し、情報を共有しながら指導・支援を行う。 ・配慮を要する子どもについて幼稚園・保育園・中学校と連携会議を年間2回以上開催する。	・年4回、特別支援教育に関わる研修会を実施し理解を深める。 ・校内支援委員会を中心に、連絡会や学級経営会議等でも定期的に情報共有の機会を設ける。 ・支援シートを作成し情報を共有できるようにする。 ・専門機関の巡回相談を計画的に実施する。 ・個別的教育支援計画や指導計画の充実を図る。 ・スクールカウンセラーとの連携を図る。

④ 開かれた学校づくりの推進と地域力の活用

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・文書処理校務サーバーの活用により各分掌間の連携及び情報共有の強化 ・定時退勤日の取組の推進強化 ・衛生管理の改善、充実	・アンケートで「文書のデータを校務サーバーに保存・整理することができた」と答える職員を90%以上にする。 ・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比5%削減する。	・校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 ・毎週水曜日の定時退勤日の確実な実施を行い、会議や研究等は16時45分までに終了する。 ・定時退勤日に不測の残業があれば管理職に申請する。
学校運営	○開かれた学校づくり	・教育活動等学校の情報を家庭や地域に積極的に提供	・授業参観参加者率70%以上、学級懇談参加者率50%以上を目指す。 ・フリー参観日地域住民参加者50名以上をめざす。	・フリー参観日を設定し、幼稚園・保育所、老人クラブ等へ呼びかける。 ・地域ボランティアなど地域の人材活用をさらに推進する。 ・学校便り、学級便り、CS便り、まちcomi等で定期的な発信を行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目